Goering, P., Tolomiczenko, G., Sheldon, T., Boydell, K., & Wasylenki, D. (2002). Characteristics of persons who are homeless for the first time. *Psychiatric Services*, *53*(11), 1472-1474.

この論文では、初めてホームレスになった人の特徴を特定した。サンプルには、年齢、性別、使用レベル、およびシェルターのタイプの観点から、ホームレスのシェルターユーザーの総人口が反映。サンプルの 5 分の 2 が初めてのホームレスであった。初めてホームレスだった人と以前にホームレスだった人との間には多くの類似点が存在。性差は認められず、両方のグループで精神的および肉体的な病気と同様に社会的不利の証拠があった。精神障害および物質使用障害の有病率と以前の入院率は、初めてのホームレスの人と以前にホームレスだった人との間で差はない。さまざまな精神障害の割合は 2 つのグループ間で差がなく、以前の入院率も差がない。この研究では他のほとんどの研究とは対照的に、初めてホームレスになった人と以前にホームレスだった人との間で薬物乱用の違いは認められなかった。2 つのグループは、住宅に関連する子供時代の経験によって区別され、どちらのグループも深刻な問題を示す複数の指標を持っていた。介入の必要性は、ホームレスの人口が多い場合と同じ程度に重要である。慢性的なホームレスのグループの低い教育レベルは、適切なリハビリ介入で修正可能な人的資本の違いを反映しています。

この研究の結果は、特定の小児期の要因が個人をより慢性的なホームレスになりやすくすることを示唆している。貧困だけが予測因子とは言えないが、家庭の不安定性はホームレスが続くリスクを高める。在宅外配置および小児期のホームレスも以前の研究で予測因子として特定されている。安全で安定した住む場所がないという初期の経験は、一度失われた住宅を取り戻し、維持することを長期的に困難にすると考えられる。